

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用(改訂2019年版、名古屋市長官庁環境政策推進課環境マニュアル2019) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋市長昭区川名山町PJ	階数	地下1F地上10F
建設地	名古屋市長昭区川名山町 133番の一部、134番の一部、136番の一部、137番、138番の一部、144番及び145番	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域/第2種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	303 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2020年12月15日
敷地面積	3,646 m ²	作成者	
建築面積	1,096 m ²	確認日	2020年12月18日
延床面積	6,729 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.3 ★:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C	★☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60% ☆☆☆ 30% 標準計算 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合		
ボリュームの異なる西棟と東棟を同じ色調で構成し一体感ある外観とし、マリオンや手摺の構成を変えることで外観に変化を与えている。外壁タイルは緑の映える落ち着いたアースカラーを用い第2外壁面をグレー系とすることで、マリオンやスラブラインが明度のコントラストにより浮び上り、バルコニーの横が深く見える配色構成としている。ガラス手摺は最上階は透明ガラス、その他はグレー(半透明)とし高級感を持った色調で全体をまとめている。		
Q1 室内環境 維持管理や更新がしやすく、長期的な利用が可能な建築物の実施を追及している。	Q2 サービス性能 維持管理や更新がしやすく、長期的な利用が可能な建築物の実施を追及している。	Q3 室外環境(敷地内) 建物の外周には周辺環境への調和を計るため、積極的に緑地帯を設けることで日常生活の中で緑を感じれるよう配慮している。
LR1 エネルギー 断熱等性能等級は4を満たす断熱計画をしている。	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない資材を使用することにより、安心・安全な住環境の実現に努めている。	LR3 敷地外環境 ゴミ置場は敷地の外周ではなく、建物内に計画することで周辺環境への配慮を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市昭和区川名山町PJ

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル:

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	5.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。